

「延世大学校スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学人間・環境学研究科 I 年 ホウイセン

今年 2022 年の延世大学校のスプリングスクールに参加させてもらい、オンラインの語学勉強と交流会を伴い、非常に充実した春休みを過ごした。自分の専攻や慣れ親しんだ文化から、より広くて多様な世界に目を向けることができ、大変いい経験になった。

二月初めから、事前の韓国会話教室が行われることにつれ、韓国の映画を見たり、韓国料理を食べに行ったりして、意識的に韓国の文化と接触するようになった。語学の基礎知識以外、プログラム参加予定のほかの京大生とのグループディスカッションも興味深かった。皆が経済学や人類学などそれぞれの立場から朝鮮半島の文化を考えているので、議論の対象となる映画がさらに面白く見えた。

三月の正式授業では、私は一級の二班に入っていた。毎日の朝では、単語、文法、リスニングと会話という四限の韓国語レッスンを受けた。入門レベルではあるが、大事なハングルの発音と文法構造はしっかり理解することができた。毎日課題があり、一人ひとりチェックされるなどから、韓国学校の真面目な雰囲気を感じるとともに、自分の勉強意欲も高まった。担任の先生たちのご配慮のおかげで、オンライン授業にもかかわらず、興味津々効率よく勉強してきた。さらに、今後一人でどのように韓国語を学び続けることも見当がつくようになった。

プログラムの中、延世大の学生と交流を含むセミナーが二回開催された。一回目は映画『バーニング』を対象に、小説と映画の鑑賞方法が議論され、学生たちが「象徴」、「現代」、「女性」などのキーワードで意見を交わした。二回目はオンディマンズの講義を基づいた質疑応答であった。そこでは、韓国男性の兵役経験を具体的に聞け、いくつかのエピソードから軍隊の訓練が若者をどのように成長させたことをより身近に感じることができた。それに、韓国映画やドラマの中のノスタルジア要素についても議論し、アジア各国のノスタルジアの相違と類似を考えさせられた。それ以外、コミュニケーションの中、延世の学生がいずれも高い英語力を持っているのを見て、尊敬の気持ちがいっぱい、自分もこれから英語の会話力を磨く必要があると痛感した。

私のクラスでは、さまざまなバックグラウンドを持つ学生が集まっていて、韓国と英語を重ねてお互いのことを話し合っていた。私は今回初めてチリやスペイン、インドネシアやトルコ出身の人と対面で会話ができ、彼らの物語と故郷のことを知ったのである。スクリーンの中、みんなの素敵な笑顔がすべての距離を超えられるように感じた。韓国のことだけでなく、プログラムを通して、想像以上の多様な文化と出会った。韓国のチャットアプリ「Kakao Talk」で連絡先を交換した友達が何人いて、今後も仲良くしていきたいと思っている。

三週間は短かったが、韓国語と韓国文化の面白さをよりよく感じる事ができた。それに、実際に各国の若者とコミュニケーションをし、それぞれ違う人が意外と親しみやすいという点にも感銘を受けた。なので、文化の多様性と平和なる世界を守るのが何より大事だと強く思った。こうして、私は自分の将来の進路に対して再び決意を固めた。それは、マスコミ業界で、東アジアの文化交流と地域連携に身を投じることである。歴史的な誤解が解け、各国の人々が互いのことを尊重し、誠に向き合える日が早く来るように。